

## 議事録資料：第5回 文部科学省IB教育推進コンソーシアム関係者協議会

日時：2019年9月19日（木）13:00～14:30

場所：ビジネス・ブレイクスルー麹町オフィス・レクチャールームA

（〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア 1階）

出席者（順不同）：岩崎氏、江里口氏、荻野氏、河合氏、竹内氏、坪谷氏、ネルソン氏、廣川氏、日色氏、  
荒屋氏、出口氏（Zoom出席）（欠席：大迫氏、濱田氏、渡辺氏）

オブザーバー：文部科学省、IBO 星野氏

庶務：アオバジャパン・インターナショナルスクール（文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局）

### 議事次第：

- （1）IB教育に関する諸課題の優先事項について（会長案）
- （2）コンソーシアム事務局の今年度の活動状況報告
- （3）その他

### <配布資料>

資料1：IB教育に関する諸課題の優先事項について（会長案）

資料2：今年度の事務局活動状況報告

資料3：第3回国際バカロレア推進シンポジウム案内チラシ

### 議題：

- （1）IB教育に関する諸課題の優先事項について（会長案）

前回の関係者協議会では、各分科会よりIBをめぐる諸課題への優先事項を提案いただいた。今回は、それらをもとに実行可能な優先事項の選定を会長案としてまとめた。

#### 【具体的に取り組むべき事項】

##### ①自治体へのIB導入への必要な支援

##### ◆各自治体におけるIB導入の好事例の集約と共有を実施

- IB導入の意義・価値（地域における教育ニーズとの整合性）
- 導入までのプロセス（議会による承認過程等）
- 設置計画の策定（検討組織の設置、予算の確保等）
- 地域理解の形成（IB導入に関する住民・保護者等の理解）
- グローバル人材育成事業との関連性の明確化（SSH、SGH、SGU等）
- 指導できる教員の確保（教員研修・柔軟な人事配置等）
- カリキュラムの策定（IBと学習指導要領との整合性）
- IB修了生のキャリアパス情報（進学情報）

## ②IB 教員養成における量的拡大と質的充実

### ◆IB 公式ワークショップの定期的な開催と参加促進

(地方としての開催、参加費の負担軽減)

### ◆教員養成課程を有する大学・大学院との連携

—教員養成課程に在籍する学生への IB 教育への理解促進

—IB 教員養成に関する取り組みの共有

—IB 認定校との連携仲介 (例：教育実習のための情報提供等)

### ◆IB の考え方 (教科横断的なアプローチ等) に関する研修会の推進

(対象： IB 導入に関心のある教育関係者、関心校・候補校の教員等)

## ③生徒・保護者への IB 教育に関する情報提供

### ◆生徒・保護者層への情報発信戦略の策定

—どのようなターゲット層に、どのような情報を、どのような媒体で発信していくのか。

### ◆生徒・保護者向けの IB 教育の基礎情報の発信

—コンソーシアム HP や AirCampus 等を通じた IB 基礎情報 (FAQ 等) の発信

### ◆生徒・保護者向けの IB 啓発セミナーの実施

—学校単位での公開授業の推進や地域における IB 啓発イベントの開催

—生徒・保護者の関心や疑問を受け止める場の生成

### ◆IB スコアを活用した国内・海外大学への進学情報 (例：入試情報、奨学金情報等)

## ④IB 生に対する財政支援について

### ◆既存の国内奨学金支援団体との連携の検討

—国内の既存の奨学金団体に IB 生を対象にした 就学支援プログラムの設置を要請する。

### ◆IB 生の負担軽減の検討 (公的な支援が困難なものを含む)

— 最終試験の科目毎の試験料

— PC やグラフ電卓などの必須な器具備品

— IB の活動に係る授業料以外の教育費 (個人負担となる学校活動費など)

— IB コースに係る追加の授業料 等

## ⑤企業家の視点からグローバル人材の必要性

### ◆IB 修了生とグローバル人材の資質能力に関する多角的な検証・エビデンスの収集

【グローバル人材としての資質能力 (分科会より指摘)】

本質を見極める能力の育成／問題発見・課題設定能力の育成 / グローバル・マインドセットの育成／  
変化に対する柔軟性／ つながり、統合する力の育成／高い自己規範と哲学／ グローバルに通用するコ  
ミュニケーション能力

### ◆活躍する IB 修了生のグローバルなキャリアパス事例の共有

—IB 啓発イベント・シンポジウム等での IB 修了生の キャリアパスの紹介 (産業界との効果的な連携)

### 【会長案への承認について】

会長案の承認が取れたので、今回は具体的な活動に対する工程表を事務局として提示する。

## 【構成員からのご意見】

IB 普及促進に係る課題として、坪谷氏より、下記の問題提起が共有された。

提案：日本語 DP 試験の英語 2 科目縛りを解除したうえで、選択の自由度を高めるのはどうか。

背景：・国内の IB 普及促進において、英語 2 科目縛りを解除することでさらに多くの学校や自治体において IB の導入を検討いただけるのではないか。

- ・特に学校や各自治体では英語で他教科を教えることのできる指導教員を探すことにおいて、苦労があるとの声も耳にしている。
- ・実際のところは、2 科目縛りを解除したとしても、従来通りデュアルランゲージ DP を実施したい学校は各学校の自由裁量で実施すればよい。
- ・まずは、次回の関係者協議会において、本件について構成員の方々と議論を行いたい。それにあわせて、事務局より各 IB 認定校・候補校・関心校にも 2 科目縛りの現状に関する現場の受け止め方を調べてほしい。

結論：事務局にて下記の点を踏まえた調査（例：インタビュー、質問紙調査等）を行い、それらの資料をもとに本議題に関する協議を行う。

- 留意事項：・日本語 DP 導入にあたり、これまでに IB 機構と文科省で議論がなされたのか。
- ・IB 機構の言語ポリシーについての把握が必要。
  - ・企業側としては、英語でのコミュニケーション力もあり、多国籍の人ともディスカッションが出来る人材もほしい。
  - ・DLDP 校へのヒアリング（現場で 2 科目縛りをどう受け止められているのか）。
  - ・IB 機構発刊の関係資料の日本語翻訳資料の充実も並列して重要である。
  - ・IB 受講生の推移の見通し。
  - ・IB 導入をめぐる地方の整備環境の格差をどのように検討するのか。
  - ・各 IB 校での DLDP 導入の経緯を把握が必要。
  - ・各 IB 校で英語 2 科目縛りにおいて、どの教科を選択したのか。またその理由は何か。

## 議題

### （2）コンソーシアム事務局の今年度の活動状況報告

事務局より今年度の活動状況の報告が行われた。（下記、報告事項）

#### 【1. 国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務】

##### ◆IB 普及アンケート調査（事務局調査）

IB 教育の効果と普及への諸課題把握に向けて様々なステークホルダーへのアンケート実施

2018年度：AC会員を対象にしたICTプラットフォームの活用ならびにIBに関する意識調査の実施（方法：アンケート調査 12月～2月）

2019年度：認定校・候補校・関心校ならびにIB導入に関心のある自治体を対象とした質問紙調査の実施（10月～12月に実施予定）

→今後も関係者協議会で出た調査も加えて実施していく。

#### ◆大学のIB入試状況調査（事務局調査）

国内大学・海外主要大学のIB入試実施状況の調査。（継続中）

\*コンソーシアム協力機関「トモノカイ」による海外大学でIB入試に関する情報提供含む。

#### ◆その他、IB普及・促進に寄与する研究の奨励

\*IBに関する研究セミナーの実施（予定：10月26日）

－日本の教育とIB教育の効果比較研究（IB学会との連携）

\*IB学会ならびに国内のIB研究者との連携のもとに上記を奨励していく。

### 【2. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務】

#### ◆IB導入校・関心校・自治体へのヒアリング調査・訪問について

自治体（教育委員会等）へのヒアリング訪問ならびにIB啓発セミナーの開催に関する希望調査の実施  
回答数：23（47都道府県＋20政令指定都市の教育委員会を対象に調査）

うちヒアリング希望のあった下記の4自治体に対してヒアリングによる訪問を実施。

埼玉県教育委員会（7月18日） 鳥取県教育委員会（7月31日）

石川県教育委員会（8月22日） 鹿児島県教育委員会（8月27日）

\*上記訪問先の県庁所在地周辺の市町村区の教育委員会にもコンタクトをとり下記の機関にも訪問。

金沢市教育委員会（8月22日） 鹿児島市教育委員会（8月27日）

#### ◆今後の自治体へのアプローチについて

都道府県教育委員会は、主に高校を管轄しており、小学校ならびに中学校におけるPYPやMYPの導入については、市町村区の教育委員会にアプローチをする必要がある。一方で、市町村区の教育委員会は2000以上もあるので、ヒアリング訪問の希望調査ならびに個別の訪問を実施することは関しては、慎重に検討する必要がある。また、自治体の関係者の中では、IBの認識については、「IB＝日本語DP（高校関係者のみ）」と捉えている傾向もあるため、引き続きIBプログラム全体の啓発活動を通じてこれらの認識を是正していく必要がある。

#### ◆IB理解促進の啓発活動の実施

・各地方都市でのIB啓発セミナーを開催（下記、今年度の開催予定）

奈良（11月23日）\*会場未定

鳥取（11月25日）\*会場予定：倉吉東高等学校

鹿児島（12月21日）\*会場予定：鹿児島修学館中学校・高等学校

・生徒・保護者向けの IB 理解啓発イベントは海外子女教育振興財団主催の学校説明会・相談会にて登壇講演ならびにブースでの IB 教育に関する相談を行った。

名古屋：7/26（金） 個別ブースの設置

東京：7/30（火） 個別ブースの設置、IB 啓発講演の実施（140 名程度の生徒・保護者が参加）

\* 個別ブースでの生徒・保護者からの主な相談内容

—国際バカロレアの概要について

—各 IB プログラムに関する進路相談

—IB スコアを活用した大学入試について

→セミナーや説明会を実施してみて、IB について理解がない保護者もまだまだ多くみられるため、保護者向けのセミナー実施も必要である。

### 【3. ICT プラットフォームの構築・運營業務】

#### ◆Air Campus®上での情報共有フォーラムの運営

\* PYP、MYP、DP、進路・IB 入試、管理職、教員養成、行政（自治体・教育委員会）に関する情報交換とディスカッションの促進

#### ◆AC ファシリテーターとの対面型の情報交換会の実施（年 2 回程度）

\* シンポジウムや IB 理解セミナーに合わせて、対面型の情報交換会を全国各地で実施していく。

\* 6 月 29 日 AC ファシリテーターミーティングの実施（於：東京）

議題：AirCampus における情報共有の活性化案について

←こちらの案に基づき 9 月 22 日に AirCampus の一部リニューアル化

#### ◆AC に参加しているコンソーシアム協力校・機関との協力体制の構築

\* 第 3 回シンポジウム後に、第 1 回コンソーシアム協力校・機関による連絡協議会の実施予定

—教育実習の促進・授業見学のコーディネート

—各学校における IB 教育実践の共有

#### ◆Air Campus®の運用状況（2019 年 9 月現在）

○個人会員の登録状況について 登録数：490 名（2019 年 9 月 13 日時点）

○団体会員（コンソーシアム協力校・機関）の登録状況について

登録数：41 団体（内訳：学校-26 大学-6 教育委員会-7 その他-2）

-IB 普及・促進に係る施策や IB 調査研究への協力

-協力校・機関名をコンソーシアム HP に掲載（近日公開）

-協力校・機関を対象とした専用の AC 掲示板の活用

-コンソーシアム協力校・機関を対象としたメーリングリストの運用

○各掲示板での質問や情報共有

#### 【4. シンポジウム等の開催業務】

##### ◆IB普及・促進に係るシンポジウムの実施（年2回）

第3回国際バカロレア推進シンポジウム開催（2019年9月22日）

テーマ「日本国内でのIB導入好事例 学校、自治体で広まる国際バカロレア教育について」

—PYP,MYP,DPにおける教育実践の紹介・各自治体でのIB導入促進

（ねらい）IB導入関心校・自治体の拡大、コンソーシアム協力校の拡大

\*第4回シンポジウムは、大阪にて開催予定（2月23日）

##### ◆今年度のセミナー・シンポジウム等

—10月26日「IB研究セミナー」の実施 日本の教育とIB教育の効果比較研究（IB学会との連携）

—IB地域啓発セミナーの実施（年度内予定：奈良、鳥取、鹿児島等）

<日程案内：今年度の関係者協議会のスケジュール>

第6回—2019年12月13日（金）13：00～15：00

第7回—2020年2月6日（木）13：00～15：00